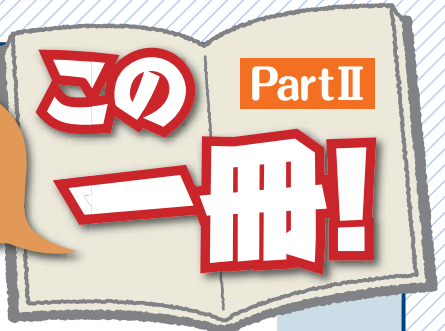




# 経営コンサルタントが 第4回 オススメする



[発行] 日経BP社  
[著者] 自創経営センター所長 東川 広伸  
[価格] 1,620円(税込)

特定社会保険労務士・医療労務コンサルタント <sup>たけうち</sup> 武内 <sup>まゆみ</sup> 万由美

## 残念な社員が一流に変わる秘密のルーティン～お金はなくてもヒトは育つ～

自ら考え行動する「自創社員」を育てるためには

社員に関する問題は、いつの時代も経営者の頭を悩ませます。特に、この超採用難の時代においては、優秀な人材の訪れを待つよりも、今いる社員をいかに育てるかということが最重要課題になってきます。そのような中、お金はなくとも〃というフレーズに惹かれてこの本に手を伸ばしました。

そんな夢のような話があるものかと思いつつ、読み始めました。道具として最低限必要なものは、ノートと鉛筆のみです。この2つを使って、綿密に社員の目標設定と計画策定を行なっていくというお話です。ちなみに、ノートと鉛筆、というところがポイントで、パソコンなどのハイテク機器は使ってはいけないそうです。手を使って書いての方が記憶に残る、ということのようです。

では具体的にどのような育てるのか、というと、残念な社員を成長させるためには〃自創社員〃に育てることが必要ということ

とです。〃自創社員〃とは、自分で考えて動きながら成長できる社員を指します。確かに、物事の意味を理解するということはとても大切なことで、「この作業がどの結果に繋がるのか」「これをやらなかったらどうなるのか」などと考えることで、関連性を理解でき、優先順位の付け方も上手になってきたりします。

もう一つ、大切なエッセンスとして、経営者との対話の時間が重要とのことです。対話といっても経営者が話をする時間ではなく、社員の話をする時間です。あくまでも経営者は、聞き役に徹する必要があります。弁の立つ経営者のみならずには、少し酷な話かもしれません。

こうして、残念な社員を脱却して晴れて一流の社員となると、自ら仕事を創造し、やりがいを実感でき、ひいては離職率の低下にも繋がっていきます。

いかがでしたでしょうか。たし

かに〃お金はなくても〃ですが、経営者にとってお金と同じくらい大切な〃時間〃を使わなければなりません。やはり人を育てることは難しく、その分、育つことはとても価値のあることです。手塩にかけて育てた社員が長く残る会社であるための風土づくりも、あわせて実践していけるとベストです。

### Profile

中京社会保険労務士法人 社員  
特定社会保険労務士・医療労務コンサルタント  
名古屋市新事業支援センター登録専門家

わかりやすい話し方に定評があり、名古屋商工会議所若鯨会や新瑞支部などセミナー・研修講師が年間50本を超えることも。端的な助言で、開業医やその奥様から信頼が厚い。運営する「中社Facebook」は年代を問わずファンが多く、軽快な掛け合いを日々繰り広げる。お茶とみかんの静岡県袋井市出身。

